

■長野さくらの会から表彰

桜の植樹にあたって、昨年11月に試験植樹を行い、光城山に適した品種や植樹場所の選定を行いました。また、植樹後の食害防止ネットの製作や登山道、植栽場所の美化活動に地元の光区（豊科）、桜坂区の皆さんも携わり、今回の植樹を迎えました。

プロジェクトの活動に対し、本年5月には、桜の愛護、保全活動などを行っている団体「長野さくらの会」から表彰されました。



植樹に向けての現地測量の様子



長野さくらの会から送られた賞状

■プロジェクトの舞台 光城山

名前の由来となっている光城は、鎌倉時代にこの地に移り住んだ海野氏の一族、光氏が、戦国時代（16世紀）に築かれたと考えられる大規模な山城です。光城は、川中島合戦の前に、武田信玄の先ぼうによって攻め落とされたため、当時の面影はありません。山頂には、史跡を示す説明板と標柱、火の神を祭る「古峯神社」が建っています。

現在の光城山は、気軽に登ることができる山として、健康増進のために多くの方が訪れています。また、安曇野の田園風景と北アルプスを一望できる絶好のビューポイントとして市外からも多くの人が訪れます。



光橋から見た光城山（左）と山頂の古峯神社（上）



植樹前に参加者にあいさつする高橋さん（手前）



売店の様子（旧豊科町公民館報・昭和34年）

なつたと言ってもらえればと思っ
ています。
植樹をきっかけに多くの人の交
流の輪が広がり、春、桜の時期に
は、光城山はもちろん、麓の公園
や街かど、市内のあらゆる場所で
桜が咲く、そんな安曇野市になっ
て欲しいですね。

光城山1000人 SAKURA プロジェクト

プロジェクト会長を務める高橋恒雄さんとプロジェクトに参加し地元在住の長崎要さんに光城山への想いを伺います。

山頂付近にある桜の古木は、大正時代に地元の青年の手で植えられ、大切に育てられてきたものです。地元の方が長きにわたり先人たちから受け継いできたように、この取り組みは、かなりの年月と多くの人の協力が必要です。今回植樹に参加した皆さんや訪れる登山者には、桜だけでなく光城山全体をみんなで守ってほしいと思います。



多くの皆さんが関わり、桜を守り育てている光城山ですが、地元での取り組み例としては「光桜を愛する会」があります。会では毎年、夏場と初冬の2回、下草刈りや登山道の整備をしています。先日も約50人程で枯れた桜の枝の除去や草刈りなどを行いました。安全に山を楽しむためにも大切にしたい取り組みだと感じています。

私が地元の青年団に入っていた頃は、桜の開花時期になると売店でラムネやサイダーを売っていました。商品が売り切れた時には、麓の店まで転がるように下って買い出しをしたことも今では良い思い出です。
一人一人に思い出、愛着のある里山です。これからは観光・環境整備にと、多くの皆さんの手で育んでほしいと思います。

多くの人の協力で 桜のまちにしたい

山頂では天候も良く、たくさんの子どもたちが参加して、無事、植樹ができました。将来、大きく育った桜を見渡せる光城山になることを楽しみにしています。



たかはしつねお
高橋恒雄さん 豊科田沢

光城山1000人SAKURAプロジェクト会長、光城山を含めた豊科田沢および豊科光地籍の山林170haを管理する上川手山林財産区管理委員会会長を務める。

みんなで守り育てた 里山です

光城山の桜は、今から約100年前に大正天皇即位を記念し、地元の青年の手で植樹されました。光城山の桜「ソメイヨシノ」の寿命は、60〜70年程ですので、現在の桜はかなりの老木と言えます。今後、末永く光城山の桜を楽しみたいためには、継続した取り組みが不可欠となっています。

ながさきかなめ
長崎要さん 豊科光

地元市民の目線で、プロジェクトの活動を支える。「登山道では元気にあいさつしましょう」と気さくに微笑む。

